

りんしょう

にんしょう

臨床と人称

ー 心理療法の「科学」をめぐるフォーカシングと臨床行動分析の対話

このシンポジウムは「一人称の科学」(First Person Science ; Gendlin & Johnson, 2004) をめぐって、フォーカシングと臨床行動分析(広義には認知行動療法)という通常では接点がないとされる、2つの対人援助の立場が対話する「知的アリーナ」です。ここでは、臨床心理学、心理療法、さらには対人援助の「共通言語」の構築を目指していくために、この領域における「科学(性)」や、その具体的な方法論をラディカルに捉え直していくことを目的としています。

皆さまには、このアリーナにおいて次代の対人援助の「共通言語」が構築されつつある、まさにその場面にお立ち会いくださり、討論にご参加くださいますと幸いです。

日時
2007年 **6月2日(土)**
13:30~17:30 (13:00開場)

場所
立命館大学衣笠キャンパス 創思館 1F カンファレンスルーム
(定員120名)
主催：立命館大学人間科学研究所 後援：日本行動分析学会(公開講座)

話題提供者 (発表順：敬称略)

村里忠之 (帝京平成大学/准教授)
「一人称の科学~複雑に応答する秩序について」

武藤 崇 (立命館大学/准教授)
「First Person (一人称)とは『私』なのだろうか
~『科学』は何のために、誰のために」

村川治彦 (イーストウエスト対話センター/代表)
「『一人称』における体験と言語
~身体感覚とメタファーの関わり」

井上雅彦 (兵庫教育大学/准教授)
「自閉症児に『一人称』を教えるために
~内的事象の言語化と強化随伴性という環境操作の関係性」

指定討論者 (発表順：敬称略)

中川吉晴 (立命館大学/教授)
望月 昭 (立命館大学/教授)

入場無料/事前申込

メールにて人間科学研究所事務局宛
ningen@st.ritsumei.ac.jp までお申込下さい。